

## うめきた2期区域まちづくり検討会での主な意見

## 第1回（平成26年6月13日開催）

## 【「みどり」について】

- ・これだけの「みどり」を生み出すチャンスはあまりない。何世紀も生き続けるものに対する考え方をしっかりと持たねばならない。屋上緑化のように手の掛かるものでなく、かなり力強い「みどり」でなければならない。
- ・修景が主体のオープンスペースと、避難も含めて人が利用でき賑わいを生み出す「みどり」について、規模・配置を考える上で検討しておくべき。また、面積要件に関わらない「みどり」の質も重要。
- ・都市レベルから見た「みどり」の連続性を考える必要。
- ・「みどり」には防災の視点が必要。
- ・エリアマネジメントの中で、「みどり」の維持管理の視点だけでなく、使いこなしという視点を入れなければならない。

## 【中核機能について】

- ・「22世紀を見据え大阪にこのような機能が必要だ」という要請主体の機能と、事業性を考えて「こういう機能を入れて一定の事業性を確保する」という2通りの機能があり、それらのバランスが重要。
- ・中核機能によって、まちの性格、品格が大きく規定される為、実現性を見極めが必要。

## 【交通ネットワークについて】

- ・色々な都市を見ると、地上での賑わいも必要。現状1期での2階レベルの主動線を、2期でどのように地上レベルに下ろすのかがポイントとなる。
- ・デッキについては、もっと積極的にこのまちの景観を楽しむ空間として考える必要がある。

## 第2回（平成26年8月7日開催）

## 【まちづくりの目標について】

- ・「みどり」には、時間軸の視点や次世代に引き継ぐといった視点を。
- ・全く新しい競争力を獲得し、世界的な拠点を創ることを強く打ち出し、大阪が日本を担うくらいのスタンスであるべき。

## 【「みどり」の配置・規模について】

- ・「みどり」はこれまでにない新しい「みどり」の考え方を提示すべき。
- ・大胆な提案に制約をかけてしまわないよう、「みどり」についてあまり細かく規定するのではなく、幅広く受け止められるようにすべき。

### 【まちの景観形成、交通ネットワークについて】

- ・南北軸、東西軸はまちづくり基本計画を一定尊重すべき。

### 【災害に強いまちづくり、環境への配慮／エネルギーインフラの整備について】

- ・最低限の帰宅困難者の収容に加え、自立型のエネルギー確保は重要。

### 【まちの管理運営について】

- ・「みどり」は、持続的で質の高い管理の仕組みをどう実現するかが重要。
- ・成功した BID は事業を拡大して行っている。周辺地区も一体的に管理運営できるような可変性、拡張性のある考え方とすべき。

## 第3回（平成26年8月25日開催）

### 【まちづくりの方針の位置づけについて】

- ・まちづくりの方針が優秀提案者との対話のもとに作成しているという説明が抜けている。この方針の位置づけを明確にすべき。

### 【まちづくりの目標／中核機能について】

- ・目標は時代を超えて説得力を持つものだが、その中身は時代に応じて変わるので、次の展開に自由度を持たせたものにすべき。
- ・国家戦略特区提案もされている中、関西としてモチベーションが上がる方向性が示されないといけない。関西の力を結集する必要がある。
- ・環境・防災は表裏一体の関係。みどりの中に防災・環境を含める等、融合的な視点がほしい。
- ・方向性はこのレベルで良い。方針では漠然と示し、良いアイデアを求めるべき。

### 【防災・環境のまちづくりについて】

- ・防災・環境は、非常時と常時の関係をどうするかという点が重要。
- ・ハード・ソフトに加えヒューマンの視点を持ち、2期区域を安全で強靱なまちにするという考え方を打ち出すべき。
- ・当地区でBCPを考えることは重要。日本は災害に問題を抱えており、大きな災害が起きても早期に復旧するというメッセージは世界に打ち出す特徴として強く認識しておくべき。

### 【まちの管理運営／周辺との一体的なまちづくり等について】

- ・パークマネジメントを考慮したハードにするという考え方を示すべき。
- ・情報プラットフォームの考え方を入れているかどうか。
- ・エリマネの制度設計が進むも、ここに到達するには更に制度が進化しないと難しい。「みどり」のまちづくりを周辺地域へ拡大するための仕組みも同様。実際のまちづくりまで時間があるので、別途検討が進むようお願いしたい。